

第61回 東京消化器内視鏡看護勉強会レポート

テーマ : 「内視鏡処置具の基本的な使用方法」
開催日 : 2024年10月19日(土) 14:00~16:00
会場 : 五反田文化会館
出席者 : 46名(世話人含む)

今回は NTT 東日本関東病院 内視鏡部 臨床工学技士の田中大夢先生に講義をしていただきました。題して「イケてる介助の基礎作り」です。参加者の皆さんは施設の規模を問わずご参加いただき、内視鏡歴10年以上の方が多く印象でした。経験を積んでなお、基本を学びたいという意欲と熱意が伝わってきました。



講義内容

- 生検鉗子「介助の全ては生検に通ず」
- 局注針「EMR・ESDは局注針で決まる」
- ポリペクトミー
「『急がば回れ焦らずゆっくり』タイミングを見計らう」
- クリップ
「躓きポイント多め仕組みの理解で失敗は減らせる」

生検鉗子・スネア・局注針・クリップについて講義して頂きました。それぞれの項目で知っておくとよい事と、動画を用いて基本的な操作・NG操作について詳しく解説して頂きました。

最初の生検鉗子のお話から、自身の鉗子操作手技を振り返ってみて反省することがいくつもありました。基本となる生検鉗子の手技ですが、カップを閉じるスピードを変えるだけでこんなにも提出する検体の大きさに違いが出るものだったのか！と比較写真を見て驚きました。「講義を聞いて良かった！」と心底思う内容でした。

勉強会申し込み時に皆様からご質問頂いた内容にも先生に丁寧に回答頂きました。「生検した組織がカップにくっついて離れない時の対処法が知りたい」という内容には、自分の心の中で(ああ、そういう事ある!)と共感していました。また、「回転機能が

無いデバイスの回し方を教えてほしい」という要望に対しては、動画でご回答いただきました。動画を見る事でまるでハンズオンのような感覚になり、実践してみたい!と思える内容がたくさんありました。

どのような施設規模でも行われる事であろう基本的な手技の内容でしたので、先生の講義に参加したすべての方がコツや工夫、学びを持ち帰る事ができたのではないのでしょうか。

基本に立ち返り、自己を振り返る事はどの分野にも通ずる共通点なのではと考えます。技術を磨きたいという気持ちを持ち続け、これからも研鑽の日々です。一つ一つ経験を積み重ねて、明日も頑張っていきたいという気持ちを改めて感じました。



次回内容は未定ですが、アンケートで希望の多いテーマを考慮していく予定です。決定次第、東京消化器内視鏡技師会 HPにてお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

今年度も多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。2025年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

文責 白井直美